



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	富岡町の特定復興再生拠点区域「夜の森地区」における除染効果
Alternative_Title	Environmental remediation of the special reconstruction and revitalization base in Tomioka Town, Fukushima Prefecture
Author(s)	平良 文亨(長崎大学), 崔 力萌(長崎大学), 松尾 政彦(長崎大学), 高村 昇(長崎大学) Taira, Yasuyuki(Nagasaki Univ.); Cui, Limeng(Nagasaki Univ.); Matsuo, Masahiko(Nagasaki Univ.); Takamura, Noboru(Nagasaki Univ.)
Citation	第 10 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.63 The 10th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	ポスターセッション 1 : 廃棄物対策、最終処分
Text Version	Publisher
URL	https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/230616
Right	© 2021 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 10 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



富岡町の特定復興再生拠点区域「夜の森地区」における除染効果

平良 文亨¹⁾、崔 力萌¹⁾、松尾 政彦¹⁾、高村 昇¹⁾¹⁾長崎大学原爆後障害医療研究所 国際保健医療福祉学研究分野

【目的】 2011年3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力(株)福島第一原子力発電所(1F)事故(以下、「事故」という)から10年が経過し、福島県では第2期復興・創生期間(2021年～2026年)に向けた取り組みが加速化している。1Fの20km圏内に位置する富岡町では、2023年春頃までに総面積の12%を占める帰還困難区域のうち、「特定復興再生拠点区域」の全面解除を目指している。特に、当該区域のうちJR夜ノ森駅前を中心とした「夜の森地区」では、2018年7月以降、除染・解体作業が本格的に進行している。これまで我々は、同町の帰還困難区域全域の環境放射能調査を継続的に実施しているが、今回は「特定復興再生拠点区域」に着目した除染効果の検証並びに最近の環境放射能レベルの推移について評価した。

【方法】 2018年7月から2021年3月の期間、富岡町内の帰還困難区域内で指定された特定復興再生拠点区域のうち、「夜の森地区」における空間線量率の測定及び核種同定(定性分析)を実施した。なお、本調査はラジプローブ®(㈱千代田テック製、検出器:HDS-101GN)による走行サーベイにより、5秒毎の空間線量率の測定及び0.2秒毎のスペクトルデータの収集を行った。

【結果】 特定復興再生拠点区域である「夜の森地区」では、調査開始時の2018年7月には空間線量率の83%が $0.38 \mu\text{Sv/h}$ (環境省ガイドラインの 2mSv/y 相当)以上を指示していたものの、2019年7月には37%、さらに2021年3月では5.6%と低減化が顕著であった。また、空間線量率に占める事故由来と考えられる放射性セシウムの検出率は、調査開始時(2018年7月)には ^{134}Cs で35%、 ^{137}Cs で57%をそれぞれ指示していたものの、2019年12月には ^{134}Cs で6.6%、 ^{137}Cs で9.3%、さらに2020年10月以降ではいずれも不検出を指示した。なお、当該エリアにおいて除染・解体作業等に從事している作業員の外部被ばく線量は、 0.55mSv/y と推定され、被ばく管理下で作業が実施されていると示唆される。

【考察】 特定復興再生拠点区域である「夜の森地区」では、除染・解体作業に伴い、事故由来と考えられる放射性セシウムの除去による空間線量率の低減化が顕著であり、環境の改善が認められた。今後も当該調査を継続し、「夜の森地区」以外のエリア(小良ヶ浜地区等)あるいは富岡町の隣接地域における除染効果と放射性セシウムの環境動態との関連についても追跡予定である。

【謝辞】 本調査については、富岡町役場健康づくり課放射線健康管理係及び生活環境課除染対策係のご協力の下、円滑に実施することができました。ここに謝意を表します。

【キーワード】 特定復興再生拠点区域、除染、解体、空間線量率、放射性セシウム、外部被ばく線量

Environmental Remediation of the Special Reconstruction and Revitalization Base in Tomioka Town, Fukushima Prefecture

Yasuyuki Taira¹⁾, Limeng Cui¹⁾, Masahiko Matsuo¹⁾ and Noboru Takamura¹⁾

¹⁾Department of Global Health, Medicine and Welfare, Atomic Bomb Disease Institute, Nagasaki University

発表
目次□頭
発表ポスター
発表企画
セッション